

## 平成28年度第3回府中市都市再生協議会 議事録

- 1 開催日時  
平成28年12月26日（月） 午後2時00分～午後3時40分
- 2 開催場所  
府中市役所4階 第一委員会室
- 3 出席  
(会長)  
塚本 俊明  
(副会長)  
岡辺 重雄  
(委員)  
前原 裕吉    小谷 直正    有光 梨紗    皐月 利夫    渡邊 寛人  
加藤 勇樹    藤枝 俊治    中村 一夫    濱崎 芳幸    宮 睦明  
道下 幸治    濱中 健司    友道 康仁  
(アドバイザー)  
原 朋久  
  
(事務局)  
副市長 船尾 恭司  
建設産業部長 若井 紳壮  
まちづくり課長 切原 秀隆  
まちづくり課都市計画係長 能島 克則  
まちづくり課都市計画係主任 原田 茂幸  
同主任 掛江 昌史  
同主任技師 信岡 知典  
同主任技師 川崎 智隼  
同主任主事 瀬川 英俊
- 4 議事次第
  1. 開会
  2. 副市長あいさつ
  3. 議事
    - ① 府中市の目指すべきまちづくりを実現するために
    - ② 立地適正化計画の素案

## 5 議事要旨

### <本日の議事録確認委員の選出>

(塚本会長)

- ・府中市都市再生協議会運営規則第6条第2項の規定により、2名の委員の方に議事録著名をお願いしたいと思います。本日の議事録の著名委員については、「市民」・「公共交通に関する事業者」のグループから小谷委員と「関係団体の代表者又はその指定する者」・「都市計画、福祉、商工業等に関する専門的知識又は学識経験を有する者」のグループから宮委員をお願いしたいと思います。

### <議事についての質疑・意見交換>

(塚本会長)

- ・市の総合計画はすべての分野を含む計画であるが、本計画は「都市づくり」の話であり、先程市の方からどのようなまちづくりをしていくかについて説明がありました。それを実現するための手段として立地適正化計画があり、要は人々が住みやすく、出て行くことの少ないようなまちづくりを目指しているということについて、一定の明確な方針が示されたと思う。

(●●委員)

- ・府中駅から800m圏域内においても、空家が非常に多く見られる。人口減少に対応していくために、今後どのようなてこ入れを行っていくか。

(事務局)

- ・空家の解消によって人口を増やすことはあまり想定しておりません。現在、「府中市空家等対策計画」については策定中ではありますが、計画策定によって他の区域より先行して老朽化し危険な空家の除去や、まちなかの空家の活用による活性化などに取り組んでいきたいと考えています。

(●●委員)

- ・備後圏の話が出たが、特に上下町などにおいては府中市内の市街地と繋がることはもちろん、世羅等市外とつながるネットワークを残しておくことが必要ではないか。
- ・また、備後圏域内に人口がある程度留まっているということについては確かにそうだと思う一方、圏域としても人口減少していく中では、日本全国から選ばれるようになる必要がある。働く場があることなども市外から人が移動してくるきっかけの1つと思うが、他に何かソフト施策などを考えているか。

(事務局)

- ・旧府中市と旧上下町では生活圏が異なっています。そのため旧上下町においても生活を守るために、都市計画道路や市外とつながる広域的な幹線も含めて今後とも整備、維持をしていき、又公共交通についても地域のニーズにあったものを確立していきたいと考えています。
- ・国が「地方創生」と謳っていることを受け、府中市でも総合戦略を策定しました。その中では、備後圏域の人口を維持することを踏まえつつ、特に「仕事をつくる」「交流人口を増やす」「女性の住まい方を変えていく」といった事項を目標に掲げ、各分野で取り組んでいきたい施策を位置づけています。

(●●委員)

- ・先日、東京にて備後圏域と言う中で府中市をPRする機会があった。地方都市においても、同じ市の中で住んで働くということには必ずしもこだわる必要がないと感じている。例えば、実家が福山なので戻ってきたいが、通勤・居住は福山でなく備後圏域内でみつかればよいという考え方も見られた。広域に考えることで、府中も活性化すると実感している。今後を見ずえた計画となっており、良いと感じた。
- ・1点、「歩いて暮らせるまちづくり」とあったが、高齢者はあまり歩かない。電車やタクシー、バスを上手に使えるような仕組みがないと、生活中心街で暮らすイメージがわからないと思う。その部分がこのままでは弱いので、高齢者の住居をつくることを前面に出すとか暮らす方のイメージが湧くようにしたほうが良いと考えます。

(●●委員)

- ・まちづくりにおいては、集客という視点も重要。文化・歴史や、オンリーワンのものづくり産業をまちの活性化や観光に生かしていくことが大切ではないか。

(●●委員)

- ・南北道路について言及されていたが、道路整備についてはこれまで産業界としても声をあげていた事項であり、なかなか実現が難しい。道路の大小に関わらず、早めに対応してもらえるとよい。また、行政を「家」に例えると、どう父親(=産業)が稼ぐのかということが根本として重要になってくる。そのために、今後の産業がどうなっていくのかというデザインについて、現場の商工業者の声も入れながら市とともに議論していきたい。

(塚本会長)

- ・南北道路沿道のまちづくりなど、どのように進めていくのか、補足があるか。

(事務局)

- ・都市計画マスタープランで位置づけたビジョンのもと、新しい産業の誘致や今ある産業の活性化などに取り組むため、例えば既存の企業立地促進奨励金を拡充していくなどの具体施策については、庁内の税や産業といった関連課とも議論しながら進めていきたいと考えています。

(●●委員)

- ・居住誘導区域については、線の根拠が合理的に説明できるようにしておくこと。

(事務局)

- ・居住誘導区域は、基本市街地と呼んでいるエリアから土砂災害の危険性がある地域や宅地造成工事規制区域を除いて設定しています。今回指定する区域内は市街地全体の生活利便性を支えている地域でもあるので、積極的な基盤整備を図っていきながら、商業などの生活利便施設を維持していき、周りの生活レベルも守っていきたいと考えています。

(●●委員)

- ・石州街道や備後国府跡についてあまり触れられていない点が気になっている。尾道や福山に比べて観光客が少ない点などへの対応は、計画に含まれないのか。

(事務局)

- ・本計画はまちづくりに関する内容を中心としていますが、観光資源・産業・公共交通など関連項目についても工夫して記載していきたいと考えています。その先のより具体的な内容については、個別計画に記載していくこととしています。

(塚本会長)

- ・本計画は、各分野の個別計画で具体化していく前段のベースとしての位置づけとなってくる。

(●●委員)

- ・交通はまちの装置とも言えるものである。まちづくりと一体となって交通や移動をどう考えていくかが重要である。出来る限りのことをこれからもやっていきたい。

(●●委員)

- ・将来の目標の考え方については、さらなる検討が必要と思われる。

(塚本会長)

- ・事務的に引き続き詰めていくこと。

(岡辺副会長)

- ・国の出している計画意図は「是が非でもコンパクトにしたい」というように思え、なかなかうまくいっていないなかで、本計画は行政として今後どのようにしていきたいかがまとめられているという意味で安心できる計画になっている。  
一方で、産業をどうするか、暮らしぶりをどうするか、といった内容は数値にまだ十分に反映されていないように思う。夜間人口だけではなく、産業のまちとして昼間人口も一定程度いるので、それを加味した計画としてはどうか。工場で働く人々がまちなかに寄らずに帰るのは商業的にはもったいない。中心部や産業軸のあたりに、夕方のスポーツなどのレクリエーションを充実させていくなど、産業都市としての新しい楽しみ方を模索していけるとよい。

(アドバイザー)

- ・既にコンパクトな大きさの市街地であり都市機能も集約されているため、土砂災害の恐れがある地域などの一部を除いて市街地の範囲を維持する考え方は、府中市の特徴的な点となっている。一方で、人口が減少する目標を立てている中で市街地の大きさを維持したいという考え方は行政コスト面からは矛盾しているようにも思え、どのように対応していくのか明確にしていく必要があるのではないか。

(事務局)

- ・ハード面でのコストについては、公共施設等総合管理計画の中で位置づけているように公共施設の適正配置によって抑制していきたいと考えています。その他の経常コストのあり方も、時代に合わせて変えていかなくてはならないと考えています。

以上